



東京ベイ通信

東京ベイ循環器内科は、強い信念をもって発展を続けます！

2012年4月の新病院開院以来、地域の先生方のご指導・ご支援を頂き、東京ベイの循環器内科は成長して参りました。現在は常勤医師12名、心血管イメージング専攻医3名の体制で患者さんの外来・入院診療にあたっています。我々は水準の高いイメージング検査による的確な診断、ハートチームによる最善の治療選択肢の検討に基づき、低侵襲治療にベストを尽くすことを信念に日々診療にあたっています。

重症冠動脈疾患に対するCHIPインターベンション、難治性下肢動脈疾患に対する集学的治療、心房細動に対するアブレーション治療など、その領域の専門家による治療体制が整っています。僧帽弁閉鎖不全症（MR）に対するマイトラクリップを用いたカテーテル治療や、心房中隔欠損症（ASD）・動脈管開存症（PDA）などの先天性心疾患に対するカテーテル閉鎖術もこの地域で唯一施行しておりますので、これらの疾患の診療も地元で安心して受けて頂くことができます。患者さんの狭心症、不整脈、心不全、心雑音等、お気軽にご相談頂けましたら幸いです。



循環器内科部長
小船井 光太郎 医師

高度な技術はもちろんチームとシステムの力で成長します！



心臓血管外科部長
田端 実 医師

皆様の多大なるご支援により2013年10月の当科立ち上げから6年連続で手術症例数が増加しています。患者さんやご家族、紹介医の皆様のニーズに的確に応えて地域医療に貢献し続けるためには、スタッフが疲弊しない体制作りが不可欠です。当科は手術症例数増加と働き方改革の両立に取り組んでいます。

当院では心臓血管外科立ち上げ当初から集中治療医チームが中心となって、ICUの術後患者さんを診療しています。外科医が手術の後に夜通しICUに張り付くスタイルは美談のように扱われることもありますが、実際は外科医の疲弊を招く効率の悪いシステムです。また、当科には2名の診療看護師が所属しており、医師の業務負担軽減や看護師視点で周術期管理の質向上に貢献しています。これらのシステムにより外科医は手術室で最高のパフォーマンスを発揮できるのです。

また、本年4月より部長の田端が虎の門病院循環器センター外科特任部長を兼任しています。同時に東京ベイ・浦安市川医療センター、虎の門病院、聖路加国際病院の心臓血管外科で「ハートアライアンス」というグループを作り、緊急手術の相互支援やコメディカルを含めた人材交流を行っています。病院の垣根をも越えたチーム医療で、さらなる高みを目指していきます。